

テーマ

インターネットプライシングの 現状と問題点

適用
分野

ミクロ経済学、ネットワーク
経済学、公共政策

研究
名称

ネットワーク経済学、ネットワークプライシング

氏名
所属

林 健太 准教授
経済学部 経済学科

内容

●特徴

インターネットの普及により世界的にネットワーク社会へと突入したが、その経済的課題・問題点を明らかにする。

●研究内容

わが国におけるインターネット黎明期では、ソフト／ハードの両面において「いかに早期に普及させるか」そのためには「いかに価格を抑えるか」が大きな課題であった。しかしながら、わずか10年ほどの間にダイヤルアップ接続（電話回線）→ISDN→ADSL→FTTH（光ファイバー）と情報通信インフラは進化し、これと相まってインターネット利用料金は低下。平行して、ISP（インターネット・サービス・プロバイダ）による課金体系は「従量料金制」から「定額料金制」へと移行した。この背景には、毎月の利用料を気にせずインターネットを楽しみたいユーザ側の要望と、顧客の使用頻度にかかわらず、加入者数に比例した収入を得られる企業側のメリットが合致したことがある。

光ファイバーは現代における究極のインフラと考えられるが、今後、デジタル放送に代表される大容量コンテンツがその上を流れるようになった場合、インターネットを「使いたい人が使えなくなる」懸念がある。確かに定額料金制への移行は、ネットワークへの参加者増には寄与したかもしれないが、同時に、ごく一部のマニアックな者による回線独占も生じさせている。これらヘビーユーザと一般ユーザが、同料金にて同サービスの提供を受けていることは、社会的に見ても効率的ではない。インターネットはもはや生活必需品であることから、公平性の観点からも、各利用者の支払い意思額に応じた、新たな価格設定を考えなければならない時代になってきている。

キーワード

インターネットプライシング、従量料金制、定額料金制

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究